

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 中原小学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・ <b>IV</b> ・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	(1) 総合的な学習の時間 ① 「心のバリアフリーを広げよう」 (4年47名) ② 「もっと知りたい! お隣の国韓国」 (3年51名) (2) 体育科 体育発表会 (全学年 301名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (体育発表会) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	① ・ 車いすや白杖などを使って生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して障害をもった人たちと共生する社会について考える。 ・ お隣の国の文化やスポーツなどを知ることによって、関心を高める。 ② 仲間と協力して競技に取り組み、集団行動を体得し、運動に親しむ態度を育てる。
5 取組内容	(1) 総合的な学習の時間 ① 4年「心のバリアフリーを広げよう」 ・ ゲストティーチャーを招き、白杖・年長者・目の不自由な方の体験 ・ 調べ学習をし、3年生にポスターセッション ② 総合的な学習の時間「もっと知りたい! お隣の国韓国」 ・ 国語科「三年とうげ」、昨年度の韓国のレスリングチームとの触れ合いを導入にして、文化・スポーツ・食べ物などを調べ、発表。  (2) 体育発表会 「走」を中心とした発表会（保護者参観）

## 6 主な成果

### (1) 総合的な学習の時間

#### ① 4年「心のバリアフリーを広げよう」

・実際に体験をさせることで、どんなことを調べていきたいか明確になった。また、ゲストティーチャーを招くことで実際に質問をすることもできた。



目の不自由な人



年長者

・3年生に発表をすることで、3年生も来年度への見通しをもつことができた。また、発表をするときのまとめ方を学ぶことにもつながった。



#### 【発表を聞いた3年児童の感想】

- ・4年生からいろいろと教わって、ぼくたちの身の回りにはいろいろと困っている人がいて、それを困らなくするくふうがあるのだと学んだ。
- ・車いすはとてもうでの力がいると知った。そして、ちょっとの段差でもそうさがしづらいこともわかった。もし困っている人がいたら、手助けをしたい。

#### ② 3年「もっと知りたい! お隣の国韓国」

- ・韓国のすごろく「コンノリ」をさせたり、3年生を担当している職員がハングルで書いたメッセージを解読したりすることから興味関心を持たせた。
- ・4年生から発表の仕方を学び、発表の準備をしている。



#### ③ 体育科「体育発表会」

- 1・2年 アスレチックリレー
- 3～6年リレー

備品購入費で買ったストップウォッチを活用した。チームでどうしたらタイムが縮まるのかを話し合い、意見を出し合うことができた。



バトンを受け取る  
ときのタイミ  
ングに気を付け  
て!



作戦を話し合う6年生



ミニハードルを跳ぶ1年生

【児童の感想】

- ・ 練習のときスムーズにできなかったバトンパスが、今日だけスムーズにいったから練習のせいかが出せてよかったです。バトンミスをしてめであてがはたせたからよかったです。（4年生）
- ・ 走るのもバトンパスも、応えんもがんばれたのでよかったです。これからも「とにかくやってみる」を大切にしていってほしいです。（5年生）
- ・ リレーの一番初めの練習でバトンパスがだめなことに気づいて、そこから休み時間をなくしてまでバトンパスやリードの練習をしました。その結果リレーをする度にみんなが上達していき、本番では一番初めのタイム5分45秒を14秒も縮め、5分31秒にすることができました。（6年生）

7実践において  
工夫した点  
(事業の特色)

- 事業を活用し、交流活動や体験活動を位置付けたことで、児童は自分の課題として追究したいという気持ちをもつことができました。
- 学習したことをまとめ、他学年に発信することでいろいろな人と共生していくことの大切さについて考えることができました。
- 3・4年は同じ階に教室があるため、発表が聞けなかったグループの資料を掲示し、見るようにした。



音が鳴る信号機は  
目が不自由な人へ  
の工夫なんだね。

8主な課題等

- コロナ禍もあり、年間の計画が立てづらい。（ゲストティーチャーを呼べるかどうかなど）
- 成果の検証を行うのは、単元の終了後のため（特に3年は学習中である）、数値での検証を行うことが難しい。

9来年度以降の  
実施予定

今年度と同様に、来年度も「共生社会」「異文化交流」について学習を進めていきたい。